



仲間の大切さ

スナック菓子やパンを届けてくれる

お客様の事務所で打ち合わせ中、強烈な揺れ……。

当然、打ち合わせを中止して帰社し、上司の指示に従い、社員の安全確認を取ったあとは解散。

一人暮らしなので、実家の両親に何度もメール・電話をするも繋がらず、お腹がすいてきたので冷蔵庫を開けてみると何も無いことに気づきました。

自転車で近隣をまわってみたものの、食料を買えるようなところはどこも空いておらず、途方にくれて家でじっとしていると夜に友人からメールで「大丈夫か？ 食べるものあるか？」と。困っていることを伝えると、友人2人が1時間後にスナック菓子やパンなどを車に積んで自宅まで来てくれました。この後も、仲間のところに届けに行くと、涙が出そうでした。この時、仲間の大切さに改めて気づかされました。

今回は全く備えをしていなかった自分が仲間に助けられたことに感謝。

もし、震災前に戻れたなら、自分がしっかりとできる限りの備えをし、逆に仲間を助けて回れる立場になれるようにしたいと思いました。





冷静で礼儀正しい帰宅困難者

トラブルなく、ゴミも残さず

荒川消防署へ消防訓練の視察に行っている最中に地震は起こりました。私は災害の対応のため、渋谷区にある消防学校に戻らなくてはなりません。すでにJRや地下鉄などの公共交通機関がストップしていたので、タクシーを拾って消防学校へと戻りました。道中、甲州街道には徒歩で帰宅する人々が集まり始めていました。

消防学校の職員約100人、生徒約50人が震災非常配備態勢に入り活動していると、本部から帰宅困難者受け入れの指示が入りました。しかし、決まった対策はありません。そこで急遽、計画を作成し、人員の配置、受け入れ場所、必要な物資などを検討し、夜10時30分には受け入れを開始。トータルで208名の方々を受け入れましたが、翌朝7時45分に最後の方が帰られるまで、誰一人として不平不満を言う人はなく、トラブルひとつ起こりませんでした。皆さんが非常時に関わらず、マナー良くルールを守って行動した結果でしょう。ゴミを残さず、お礼を言って帰られる姿に、私たちは深い感銘を受けました。





情報があると安心

スクリーンでニュース映像を流す

今回、帰宅困難者の方々がもっとも必要としていたもの、それは情報です。地震直後から携帯電話の回線がバンクしてしまったため、家族の安否確認が取れない人も多かったはず。そこで、避難されている方々に向けて、大きなスクリーンでテレビのニュース映像を流すことにしました。画面には津波などの甚大な被害が流れていましたが、同時に都内での被害が少なかったことなど、安心できる情報も得られたので、皆さんパニックにならず冷静に過ごされていました。

今回の震災では、Twitter^{※1}やSkype^{※2}で安否の連絡を取った方々の話をよく聞きましたが、インターネットの重要性が確認されたように思います。インターネットでは知りたい情報をピンポイントで調べられるし、情報が早いこともあり、それも提供するようにしました。

深夜0時30分頃に電車の運転が再開すると、避難されている方々のなかには帰路につく人も多かったのですが、状況が分かったために安心して朝まで泊まっていく人もかなりの人数がいたのです。情報があるとなんとでは、安心感が違うことを痛感しました。

※1 Twitterとは、web上に公開されている、140文字以内の短い投稿(ツイート)を入力して、みんなで情報を共有する無料のサービス。

※2 Skypeとは、インターネットを利用した世界中どこへでもかけられる無料の電話サービスのこと。



都城市 50代 男性 学校関係者



1 カ 月 か か つ た 灰 の 除 去

支援のありがたさを実感

その日は学校で研究会を予定しちよったんですよ。午後3時15分くらいですかね、山からモクモクと噴煙が上がっちゃるのが見えたんですわ。そうしたら突然、シャーという音がしだしましてね。校舎の窓ガラスに灰が降り注ぐ音だったんです。昼間なのに外はだんだん薄暗くなってくるし。これはただ事じゃないと、残っている生徒の親御さんに連絡して大至急迎えに来てもらいました。家に帰っても、山からはグワグワと不気味な音が聞こえてきますし、生きた心地がせんかったですね。

次の日、教育委員会から視察に来られたんですが、その時に2回目の爆発的な噴火が起こりまして、ただちに臨時休校を決定したわけです。

積もった灰の除去には1ヵ月くらいかかりました。ボランティアで全国に3台しかないバキュームカーが駆けつけてくれて、一日かけて中庭の灰を取り除いてくれました。マスクなんかの支援物資もたくさん頂きまして、日本人の優しさに感動しましたよ。



高原町 60代 女性 野菜直売所職員



店舗の提供を受け、販売を続ける

洗っても落ちない葉ものの野菜についた灰

お店が避難区域に指定された時はどうしようかと思いました。野菜は生ものですから置いておくわけにもいかないですね。そうしたら、宮崎市内にあるお店が「うちの店舗を使って」と申し出てくれまして、その日の朝に職員みんなでそちらに商品を移動させ、そこで販売させてもらいました。ありがたくて涙が出る思いでした。

お店には毎日、30件くらい野菜の持ち込みがあるんですが、大根やサトイモなどの根もの以外の野菜は全て食べられない状態になってしまいました。灰は粒子が細かいので、葉に刺さり、水でどんなに洗い流しても取り除くことができないんです。葉ものを専門に扱う農家さんたちは噴火によって収入がゼロになってしまったんですよ。可哀そうで、かける言葉も見つかりませんでした。

ようやく、全てが元通りになったのは9月に入ってからです。それまでは店の前の道路に灰が舞い、県外からのお客さんもほとんどいらっしゃいませんでした。本当に長かったです。



一日前プロジェクト みんなでやってみよう!

----- 簡単な手順を紹介します -----

まず、過去の自然災害(地震、水害)の中から対象を選ぶ

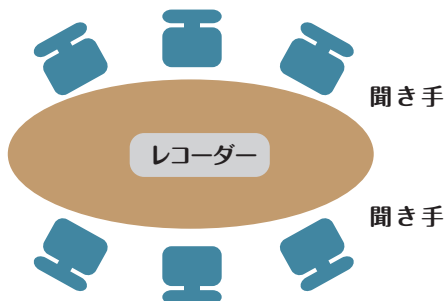
その災害の被災経験者や災害対応経験者に声をかける

みんなが集う場所と時間を設定する

※所要時間は2時間

なごやかな雰囲気の中で、当時を思い出しながら、体験したり感じたことを話し合ってもらおう

※話し手は、2~4人が適当



「教訓」や「知恵」につながる部分を拾い出し、タイトルをつける

テープ起しなどを基に、拾い出した部分を物語にする

※物語は、300~500字程度で、できるだけ切り口を残して編集

※物語の情景をあらわすイラストや写真等を添えると効果的

作成した「物語」を地域や職場のみんなに読んでもらう

気づき

共感

反省

「一日前プロジェクト」とは、地震や水害などの自然災害で被災した方や災害対応の経験をもつみなさまにお集りいただいて、

- 被災前後の行動
- 体験を通じて上手くいったと思うこと、失敗したと思うこと
- もう一度災害が発生したならば、次はどのように行動したいか
- そのために日頃から何を準備しておけばよかったか

といった本音の話をお聞かせいただき、これらの話から導き出されるさまざまな教訓や身につまされる体験をショートストーリー(エピソード)に取りまとめるという活動です。

こうして取りまとめたエピソードを広く活用・普及させることで、地域のコミュニティや国民一人ひとりに、防災・減災への関心や意識を高めていただくことを目的としています。

ここで紹介する物語は、ほんの一部です。一日前プロジェクトから生まれた物語は、内閣府の「災害被害を軽減する国民運動のページ」<https://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/ichinitimae/index.html>に掲載されています。ぜひ、アクセスしてみてください!きっと、あなたの心を動かす物語が見つかるはずです。

■一日前プロジェクトの物語・イラストは、非営利の目的であれば、広報誌やパンフレットなどで自由にお使いいただけます。「災害被害を軽減する国民運動のページ」(<https://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/>)からダウンロードしてください。



発行 内閣府(防災担当)

〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1(中央合同庁舎8号館)

TEL 03-5253-2111 URL <https://www.bousai.go.jp>

